

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年9月8日

【評価実施概要】

事業所番号	0177100096		
法人名	社会福祉法人揺籃会		
事業所名	グループホームゆうあいの郷		
所在地	〒061-0600 樺戸郡浦臼町字キナウスナイ188番地の7 0 (電 話) 0125-69-2800		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年8月19日	評価確定日	平成21年9月8日

【情報提供票より】（平成 2 1 年 7 月 8 日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・平成 1 7 年 1 0 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算 6.3人	

（2）建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての 1 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	28,800 円	その他の経費（月額）	15,000～21,000 円
敷 金	有（ 円） 無		
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（ 円） 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 250 円 夕食 350 円 または1日当たり 円	昼食 350 円 おやつ 50 円	

（4）利用者の概要（ 7 月 8 日現在 ）

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護 1	1 名	要介護 2	7 名		
要介護 3	1 名	要介護 4	0 名		
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低 75 歳	最高 91 歳		

（5）協力医療機関

協力医療機関名	新雨竜第一病院内科・深川第一病院眼科・はらおか歯科
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、道の駅、鶴沼公園が隣接する自然豊かな環境に立地している。敷地内には、母体法人が運営する事業所が隣接しており、相互に連携できる体制にある。行政の要請を受けて母体法人が設立された経緯から、町と当事業所との協力関係も良好である。また、利用者が地域でその人らしく暮らすことを目標とし、職員のスキルアップに力を注ぐとともに、地域との協力体制の強化を図り、安心して過ごせる環境づくりを実践している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4） 前回の評価での改善課題は無かったが、評価内容を踏まえ職員全体でサービスの質の向上に取り組んでいる。課題には速やかに対応し改善に努めている。 今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 管理者及び職員は、自己評価や外部評価を日々のケアの確認と気づきの機会と捉えてサービスに活かしている。職員一人ひとりが日々のケアと照らし合わせながら自己評価に取り組み、全体で検討し、自己評価を上げている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 利用者、家族、社協会長、地域包括課長、事業所理事、管理者及び職員のメンバーで2ヶ月に一度運営推進会議を開催し、事業所の運営状況の説明、行事の案内及び報告、地域と交流状況、外部評価の結果などを報告し、メンバーからの意見をサービスの向上に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 家族の訪問が多いことから、日常的に意見や要望を聞きやすくなっている。家族からの希望や要望を全職員で検討し、運営に反映させている。年3回家族交流会を開催し、家族の不安への対応も行っている。苦情窓口の情報提供は、公的機関に加え、第三者苦情委員、オンブズマンの窓口など幅広く提示している。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 利用者一人ひとりがその人らしく暮らすことを大切に、地域の行事や小学校、幼稚園、社会福祉協議会等と連携して、積極的に地域との交流を図っている。法人のイベントは地域住民の楽しみとなっており、参加も多い。事業所周りの植栽、花壇も地域住民が季節に合わせ整備している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体法人と統一した「自由で安心して楽しめる環境づくり～ゆとりとやすらぎのある空間～」という理念を掲げ、事業目的の中に「地域の中でその人らしく暮らすこと」を盛り込んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員一人ひとりのネームプレートの裏に理念を記入した紙を入れ、日々の実践の場面で理念を確認しながらケアに当たっている。ケア会議やミーティングの中で理念の共有を図り、全職員が一致した理解の下に実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は、利用者がその人らしく暮らすために地域との繋がりを大切にし、地域の行事や小学校、幼稚園の運動会、文化祭への参加、社協のサークル活動など様々な機会を通じて、地域との交流に努めている。法人で行う夏祭りには、地域住民やボランティアも多数参加し、地域のイベントとして楽しまれている。事業所周りの植栽も地域住民が四季に合わせ行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を職員一人ひとりが日々のケアと照らし合わせながら記載し、それをミーティング時に全体で検討して担当者が取りまとめている。また外部評価を日常のケアの振り返りや目指すべき方向性を確認する機会として活かし、課題は速やかに取り組み改善に努めている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、社協職員、地域包括職員他事業所関係者3名が参加し、2ヶ月に一度運営推進会議を開催している。利用者及び事業所の状況と、様々な行事の案内を報告し、意見交換を行っている。外部評価の結果も報告し、意見を職員に周知しサービスに活かすよう取り組んでいる。	○	今後、詳細な記録の整備にも期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	母体法人は、町にある唯一の高齢者福祉施設であることから、町担当者とは日常的に連携を図っている。毎月1回、町の福祉専門関係者が一同に会する町主催の地域ケア会議に参加し、地域の高齢者の暮らしについて話し合うなど、相互的に連携を取っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、新聞「やすらぎ」を発行し、利用者全体の過ごし方や行事案内を記載している。また、利用者一人ひとりの様子が分かる写真も数多く掲載し、日常の生活ぶりを報告している。家族訪問時には健康記録や金銭出納帳を提示し、ケース記録を基に状況の説明も行っている。遠方の家族には電話で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問が多く、その機会に積極的に意見や要望を聴くよう心がけている。また年3回開催している大きな行事に合わせて、家族交流会を設け意見を言い易い工夫も図っている。内外の苦情窓口も複数提示し、第三者苦情委員やオンブズマンの窓口も提示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は少ないが、異動時や新人採用時には利用者一人ひとりの状況を説明し、職員交代によるダメージの回避を心がけている。法人内の施設から職員が異動になることもあり、普段からなじみの関係となっており、利用者が自然に受け入れていることが多い。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の実践の中で学ぶことを基本にしながら、法人内研修を含め、内外部研修を月2回程度のペースで受講できる体制となっている。外部研修で気付いた課題や事業所内での課題を基に、外部講師を招いた内部研修を行い、全職員が幅広く学べる機会を確保し、職員のスキルアップを図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は、他のグループホームとの相互訪問や管内のスタッフ研修で交流を図っている。また、管理者は、地域ケア会議、管理者会議等で情報交換を行い、サービスの向上に活かしている。		
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用開始前に自宅訪問や事業所の見学を促したり、さらには、隣接のデイサービスやショートステイの利用を通じてなじみの関係を築くなど、安心して利用できるよう家族とも相談しながら取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人が必要とされていると感じることが出来るように、一緒に過ごす中で食事の支度や畑仕事など、一人ひとりの得意とする事を見極め、支え合う関係作りに努めている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月の利用者懇談会で希望を聞き取り、ケアサービスに活かしている。日々の関わりの中で、思いが表出しやすいような言葉かけや場面作りに努め、利用者の意向を汲み本人本位に検討し、介護計画に繋げている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の状況はセンター方式を活用し、情報収集を行っている。家族にはケース記録を基に状況説明を行いながら意向を確認している。利用者それぞれに担当職員がおり、カンファレンス、担当者会議を通して、一人ひとりの利用者に添う個別の具体的な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケース記録には介護計画と照合する記録シートを使用し、モニタリングシートの様式を工夫しながら、計画に即したケアの実践や本人の状況、また変化の過程の把握に努めている。毎月のモニタリング、3ヶ月ごとに定期的評価、見直しを行っている。利用者の状態変化に応じて、実情に即した計画の変更を実施している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所では、利用者や家族の意向に応じて、その時々々の必要とするサービス提供に柔軟に対応する体制が整っている。遠方からの家族の宿泊訪問や食事提供などの支援も行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者個別のかかりつけ医への通院や、往診の支援をしている。日常の健康管理や状態変化に適切に対応できるよう、職員間の共有を図りながら、同一法人が運営している特養施設の看護師の指示を受ける体制が整っており、協力医療機関との密接な連携関係も構築している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者、家族には「重度化した場合における対応の指針」に基づき、利用開始時に説明すると共に、状態変化に応じてその都度関係者間で方針の共有を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りを大切に、声かけや排泄介助、羞恥心に配慮したケアを職員全体で確認しながら行っている。個人情報記録は外部者に見えない場所に保管し、職員にプライバシー保護の徹底を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、一人ひとりのペースや意向を優先し、食事の時間や入浴も希望に添って行い、音楽や趣味活動、希望の外出先など、その日の要望に合わせ柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの得意分野や役割を見出し、料理の味付けから後片付けまで職員と一緒に作業をし、楽しく食卓を囲んでいる。外食に出かけたり、中庭での昼食や利用者が得意な蕎麦打など、毎日の食事を大切にした支援を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜間入浴の希望は無く、毎日午後の時間帯で、週2回を目安に利用者の希望に添った入浴支援を行っている。音楽や入浴剤使用で入浴環境を工夫し、また足浴、清拭など身体の清潔と気持ち良い入浴支援に努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜作りや調理、手芸、習字、唱歌や楽器演奏と利用者の持てる力を活かした場面提供に努め、利用者個々の満足感や充実感に繋がる支援に取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節行事や地域のイベントに参加する他、散歩や買い物、畑作業、サークル活動など、本人が希望する場所へ外出できるよう個別に対応している。職員は自然や外気に触れる重要性や地域との交流の必要性を充分認識し、様々な外出支援を実践している。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、居室共に日中は鍵をかけていないが、外出時や外泊する時に、居室の施錠を希望する利用者もあり、意向に添った支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼夜を想定して、年2回の避難訓練を行っている。消防署と連携して救命救急の講習や地域住民との関係作りにも努めている。災害時の飲料水や食料の備蓄も整備されている。	○	現在、災害時の協力体制の強化を視野に、地域の消防団と協定書を交わす計画が進められており、さらなる安心に繋がることが期待される。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事量や水分量などを把握して、栄養状態や嚥下、身体状況に応じて、刻み食や粥食、高栄養補助食品の使用など個別に配慮を行っている。献立は利用者の嗜好を考慮し、定期的に同一法人が運営している特養施設の管理栄養士のチェックを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一体化している居間、食堂、小上がりの和室は、明るく開放的で、廊下の空間もゆったりとした作りとなっている。利用者の作品や季節の飾りつけがされ、くつろげる環境となっている。また、自動換気システムを24時間稼働させ、快適な生活に配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具やテレビ、仏壇を置き、壁には家族の写真や勲章など大切な物品を飾り、清潔感を保たれ、居心地良く過ごせるよう支援している。		

※  は、重点項目。